

喜寿談議

還暦・古希そして

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

永井 英彰

長慶会、県東部の史跡巡り

四大枕草子で京都へ研修旅行

10月3日、三好長慶会が県東部での史跡巡りを企画、久し振りに筆者も参加した。まずは板野松茂町長原、三好長治を祀る豊岡神社。徳島空港近くの月見ヶ丘海浜公園へ入り防潮堤に沿って南へ進むと左手に見えてくる。勝瑞城主三好長治は反三好勢力の義兄細川真之との戦いに敗れ、天正5（1577）年、この地において自決した。案内表示板には家臣の姫田佐渡守、浜隠岐守、梶井又五郎、原弥助らも殉死したとある。出水康生代表は「梶井とあるのは『加地』のこと、と補足があった。長慶会会員の観音寺市加地善一氏が子孫に当たる。

木津城は自遁の居城

次は鳴門市撫養町木津の木津城跡。城郭のような天理大教会の北隣で標高60メートル、東西270メートル、南北170



三好長治終えんの地、松は2代目



大草履を飾る愛染院



幹周り12メートルの大楠（春日神社）



第4堤防全壊し、3メートルの大水（蔵珠院）

メートルという山城だった。木津城は室町時代の延文元（1356）年、篠原季村が築城したと伝わる。永禄・元亀の頃は勝瑞城補佐の篠原弾正忠実長（出家して自遁）が城主だった。三好実休は守護の細川持隆を滅ぼし、美女の評判の側室・小少将をわが妻としたことで反三好勢力が生まれた。これが後の黒田鎧場の義戦に連なる。木津城山公園が整備されているので、そこにバスを駐車できる。発掘調査の結果、5つの堅堀や礎石が確認されている。

小少将は持隆と嫡男・真

之をもうけたが、実休との間に後の勝瑞城館主となる三好長治、続いて後の十河存保を生んだ。天正元（1573）年、三好重鎮、麻植郡川島上桜城を攻め、長房、長重父子ら1300人を討ち死にさせた。

元親の阿波平定

天正10年、三好の分裂を知った土佐の長宗我部元親は2万3千余の軍勢で中富川（板野郡藍住町）で合戦、少数の三好勢を撃破した。義賢の子、十河存保は勝瑞城館を開城して讃岐に退き、ここに元親の阿波平定が成った。この時、篠原自遁は三好の衰退を見て中富川の合戦、勝瑞籠城にも参加せず、勝瑞落城の後、木津城を捨て淡路へ退いたと伝えられている。

木津城のすぐ西の天津町

大代の山間に大代城があった。小笠原源氏の流れをくむ城主の大代掃部助は三好と共に中富川で討ち死にした。掃部助は自遁の妹婿であった。元親は自遁の退いた木津城へ桑野城主東条関之兵衛を据え、天正13まで阿波を支配した。その年6月、豊臣秀吉が総勢9万余の軍勢で四国を平定した。元親は

降伏、土佐一国を安堵された。大麻町姫田に円勝寺があり、自遁の三男右近が自遁供養のため建立した碑が残されている。ここを訪れた際、右近の15代目で男前の篠原彰憲住職は「篠原長房の嫁は連如上人の孫娘。自遁が長房と敵対していたなら、右近の得度を本願寺が受け入れるはずはない」と自遁の評価に疑問を呈した。

門前に大草履

板野郡板野町那東、第三番札所金泉寺の奥の院、愛染院を訪れた。門前には人の背丈よりはるかに高い大草履が飾られている。すぐ横の山手には坂西城将兵の墓群がある。ここは中富川の合戦で討ち死にした坂西城主・赤沢信濃守を祀っている。近くに信濃守の娘「カヨ」を供養する振袖地藏がある。

矢上の大楠

藍住町へ引き返し春日神社を参拝。文化8（1811）年出版の「阿波名所図会」に「矢上の大楠」として紹介されている。樹齢1200～1400年で幹回り12メートル弱、高さ15メートルもある。中富川の合戦や勝瑞城の陥落

を見ていたはずだということ
とで、会員の関心が高い。

勝瑞城跡で昼食の後、日
亜化学鳴門工場前にある阿
波細川家初代の墓を車窓か
ら見て、同町住吉の住吉神社、
北島町・北島南小学校横の
民家の庭にある十六人塚、
国府町黒田の鎧場の義戦碑
を見学した。

「寅の大水」標柱3本

続いて同町芝原、蔵珠院
を訪問。ここは黒田の義戦
で散った久米義弘の居宅跡
に建てられている。庭に「舞
い込み泉」という珍しい渦
巻き状の泉がある。底の1
く2巻が埋まっているが、
取り除けば水が出るそう
だ。門前に「寅の大水」の標柱
が立ち3本の痕跡がある。
慶応2（1866）年吉野
川第十の堤防が全壊し、当
院檀家だけで32人が犠牲と

なった。久米秀生住職（63）
の説明では、院内に流れ込
んだ濁流の後が壁などに今
も残っているとのことだった。

篠原神社は遊び場

最後は春日3丁目の篠原
神社。ここ今切城主は木津
城の篠原自遁の次男玄義（自
遁の先妻の子との説あり）。
当初に触れた三好長治が天
正4年、細川真之との戦い
に敗れ、今切城まで退陣し
たが留まらず、別宮長原（川
内町）まで逃れた。ここで
自刃した事は既に述べた。

篠原玄蕃充は家臣の郡勘助
を頼って逃げ、言われるま
まに古井戸に隠れていたと
ころ、諫言されて惨殺された。
神社の西隣に真言宗大覚
寺派の真観寺がある。明暦
33（1657）年、今切字
北張から現在地へ移転した。
その昔、城郭に詳しい鳴門

教育委員会の田村学術委員（故
人）に今切城の位置を訊い
たことがある。篠原神社か
ら東へ墓地のある一帯でな
いか、との事であった。筆
者は篠原神社の氏子で、こ
の神社は子供時代の遊び場
だった。勤務した旧長尾鉄
工所地下が勝瑞館跡、新会
社の移転先が木津城下だから
何とも不思議な縁である。

東大寺の紅葉見頃か

9月26日、四国大学社会
人講座・枕草子の研修旅行
があり、京都東山方面へ出
掛けた。最初は東山区の臨
濟宗東福寺派大本山の東福寺。
嘉禎2（1236）年、撰
政九条道家の発願でできた。
奈良の東大寺、興福寺から
1字ずつ取って寺名とした。
まず目に付く三門は応永32年、
足利義持が再建した。現存
する禅寺の三門としては日

本最古のもので国宝。引率
者の一人、森兼三郎先生が「こ
の門は五間三戸二重門。つ
まり正面の柱間が5つ、う
ち中央3間が通路という意味。
『二重門』は2階建の門であ
るが、1階と2階の境目に
軒を出している所に違いが
ある」と説明してくれた。

本堂は明治14年焼失後、
昭和9年に再建された。天
井の龍の絵は堂本印象筆で
ある。方丈は明治23年の再
建。この庭園は重森三玲
の手により昭和13年に造ら
れたもので、八相の庭と命
名されている。南、北、西、
東にそれぞれ庭があり、お
馴染みの偃月橋、通天橋、
臥雲橋が美しい。今月は紅
葉の見頃だろう。日本最古
の東司の遺構がある。

定子に仕えた清少納言

東山三十六峰の一嶺、月

輪山の麓にある泉涌寺。皇
室の菩提所で、仁治3（1
242）年、崩御された四
条天皇を祀つたのを始め、
孝明天皇まで江戸時代の全
ての天皇、皇妃の御陵もこ
に造営されている。一条
天皇に入内した中宮定子に
仕えた清少納言が宮中の日々
を記したのが枕草子である。

定子が没した後、清少納言
は鳥野辺に住み、定子
の眠る鳥野辺陵を拝しなが
ら生涯を終えたと伝えられ
ている。さらに清少納言の父、
清原元輔の邸宅があったと
いう今熊野観音寺も拝観した。

次々に新刊本

10月1日、二ホンフラッ
シュ（小松島）創立50周年
の記念式典があり、「創業50
年史」が配られた。高橋栄
二社長との対談記事を載せ
ている。

10月8日、蜂須賀桜と武
家屋敷の会が50周年記念式
典を開催、記念誌を発刊した。
ここでは「バチカンの蜂須
賀桜近況」を掲載させても
らっている。

10月24日、藍住文芸10
号発刊祝賀会を開いた。筆
者はこの号で「（株）地域サ
ービス25期決算洗い浚いで
判った事」を発表している。



お馴染みの橋（上）とコケの基盤目（東大寺）



重森三玲作の庭園（東大寺）



皇室関係者を祀る泉涌寺



中宮定子の眠る鳥野辺陵



次々に新刊本誕生